

## 第3章 結果の考察

## 1. 結果の考察

今回の調査は、平塚市民の居留意向、生活の満足感、まちづくりに対する重要度や満足度に対する意識を調査し、今後、まちづくりを進めていくための基礎資料を得るとともに、平成28年度からスタートした「平塚市総合計画～ひらつかNe▶T～」に基づいて実施している本市のまちづくりに対して市民がどのように感じ、どう評価しているかを把握することを目的として実施しました。このアンケートの結果により、次のことが明らかになりました。

### ■【1】あなたの今後における平塚市への居留意向などについて（問1）～（問4）

【居留意向は8割以上。住み続けたい理由は依然「温暖な気候や自然環境」が上位】

#### 居留意向について

『今後の平塚市への居留意向』を質問した結果、86.3%の方が「住み続ける」または「たぶん住み続ける」と回答しました。年代別に見ると、年代が上がるにつれて居留意向が高くなる傾向にあります。

また、住み続けようと思う理由としては「温暖な気候で、海、山、川に囲まれ、自然環境が良い」が前回調査と同様に約6割となっています。同項目は、調査を開始した平成25年度から引き続き、平塚市の居留意向につながる大きな要素となっています。

#### 移転意向について

一方、「移転する」または「たぶん移転する」と回答した『移転意向』のある方は5.4%でした。その理由としては「仕事や学校へ通うのに都合が良くない」が最も多く、次いで「家族の都合で」、その次に同率で「バス・鉄道・道路・橋などの整備が十分でなく、市内外への移動がしづらい」と「住宅の事情で」となっています。

年代別に見ると10代、20代で移転意向が高く、どちらも「仕事や学校へ通うのに都合が良くない」が理由として最上位であることから、進学や就職のために市外へ移転することが多いと推測できます。

#### 魅力や誇りにについて

居留意向とは別に、『平塚市の魅力や誇りに感じる』を伺ったところ、「総合公園などの施設の充実した大きな規模の公園」が39.3%と平成25・26年度調査結果と同様に高く、2位の「災害や犯罪が少なく、安心して生活できる環境」の26.9%に大差をつけています。

### ■【2】生活の満足感や、困っていること・心配ごとについて（問5）～（問7）

【現在の生活に満足している方は6割以上。ただし、老後に不安を抱く方の割合が増加】

『生活の満足度』については、「満足している」または「まあ満足している」と回答した方が67.9%でした。この割合は10代が最も高く、20代が最も低くなっています。

また、「やや不満である」または「不満である」と回答した方の割合は、20代が最も高く、次いで40代、50代となっています。20代の困っていることや心配ごととしては「今後の収入や資産の見通し」が最上位であり、40代では最上位が「自分の老後のこと」、次いで「今後の収入や資産の見通し」であることから、経済的な不安感が大きいと考えられます。

平成26年度調査と比較すると、「今後の収入や資産の見通し」は減少していますが、「自分の老後のこと」や「家族の健康や介護など生活上の問題のこと」などは増加に転じています。

また、『悩みや不安を話せる人』について質問したところ、8割以上の方が「家族・親族」、次いで5割以上の方が「友人」と回答しています。また、年代別では、60代以上の方は「地域や近隣の人」と回答する割合が高くなっています。特に70代以上の方では、19.1%と高く、地域とのつながりが生活の上で重要であることが伺えます。

### ■【3】地域のために、地域（あなた）ができることについて（問8）～（問10）

【実際の活動につなげていくことが課題】

住みよい地域にするためには、地域の方の関わりが必要であることから、『地域で取り組むと良いと思うこと』、『実際に地域のために行っていること』、『今後できること（してみたいこと）』について伺いました。

まず、地域で取り組むと良いと思うことは、割合が高い順に「高齢者や障がい者など地域で困っている人を地域で支え合うこと」、「防災訓練など災害時に地域で助け合えるようにすること」、「子どもの見守りや夜回りなどで地域の安全を守ること」となっています。

また、『現在行っていること』を伺ったところ、「特になし」と回答した方が最も多く、平成25・26年度調査に比べ増加傾向にあります。

さらに、『現在行っていないこと』、『今後できること（してみたいこと）』についても、約7割の方が何らかの取組ができる（してみたい）としている一方で、「特になし」と回答した割合は平成25・26年度の調査に比べ増加傾向にあり、地域への関わりにつながりにくい状況が伺えます。

### ■【4】まちづくりの状況について（問11）

「平塚市総合計画～ひらつかNext～」に基づいて実施している本市のまちづくりに対して、市民がどのように感じ、どう評価しているかを把握するため、次のとおり分野別施策ごとに分類して伺っています。

- |                                  |
|----------------------------------|
| 分野①：豊かな心と文化をはぐくむまちづくり（問11-1～7）   |
| 分野②：安心して暮らせる支え合いのまちづくり（問11-8～17） |
| 分野③：自然と人が共生するまちづくり（問11-18～23）    |
| 分野④：活力とにぎわいのあるまちづくり（問11-24～30）   |

#### ○分野① 豊かな心と文化をはぐくむまちづくり

##### 全体的な傾向

【確かな学力の定着や豊かな心を育成する環境づくりが望まれる】

重要度は、項目によって差が大きく、子どもに関する項目で高くなる傾向にあります。子どもに関する項目の重要度は特に30代から40代の子育て世代で高くなっており、4つの分野の全30項目と比較しても重要度が高くなっています。これらのことから、未来を担う子どもたちの確かな学力の定着や豊かな心を育成する環境づくりが強く望まれていると考えられます。

満足度は、全30項目と比較して平均値に近くなりますが、「スポーツを楽しむ（する・観る）環境の充実」の項目で高く、「青少年が健全に成長する環境」の項目で低くなっています。

##### 前回調査との比較（※）

【教育や青少年の健全な育成を社会全体で支えるための取組が必要】

今回調査の分野①と前回調査の基本目標1を比較すると、重要度が5.2ポイント増加し、満足度が4.1ポイント減少しました。重要度を項目別にみると、教育やスポーツに関する項目で増加し、生涯学習や自由で平等な地域社会の項目で低下しています。

調査年度	分野	重要度(%)	満足度(%)
28年度（今回）	分野① 豊かな心と文化をはぐくむまちづくり	59.4	8.1
26年度（前回）	基本目標1 学校教育・生涯学習・交流	54.2	12.2

## ○分野② 安心して暮らせる支え合いのまちづくり

### 全体的な傾向

【災害に強いまちづくり、日常生活の安心・安全が期待される】

重要度は、「災害に強いまちづくり」や「日常生活の安心・安全」、「消防・救急の体制整備」の項目が特に高くなっています。理由としては、海や川があるという本市の地理的な特性や、日常生活や生命に直結する項目であることなどが挙げられます。

満足度については、「消防・救急の体制整備」が全30項目中で最も高くなっているものの、重要度が高かった「災害に強いまちづくり」と「日常生活の安心・安全」の項目では低くなっています。

また、「子育て支援の充実」や「健康づくりの推進」の項目でも重要度が高い傾向となっている一方、自治会等の「コミュニティ活動の促進」や「地域ぐるみでの支え合いによる福祉活動」では重要度が低くなっています。

なお、満足度については、「子育て支援の充実」や「健康づくりの推進」等、分野②の10項目中8項目で平均値以上となっており、他の分野に比べ相対的に満足度が高くなっています。

重要度と満足度から、災害に強いまちづくりや日常生活の安心・安全が第一に求められていることが分かりますが、これらの推進には自治会等の地域の力が不可欠であることから、市民の地域活動への意識や行動が高まるよう取り組む必要があります。

### 前回調査との比較 (※)

【災害に強いまちづくり、子育て支援の充実が求められている】

分野②と前回調査の基本目標2・基本目標5を比較すると、重要度が大きく増加しました。また、満足度も平均で2.5ポイント以上増加しています。項目別にみると、重要度では「災害に強いまちづくり」と「子育て支援の充実」が大きく増加し、満足度では「防災対策」と「健康づくりの推進」が5ポイント以上増加しています。

女性の社会進出や少子化の進展によって市民意識がさらに高まっている子育て支援の充実に向けて、引き続き取り組んでいく必要があります。

調査年度	分野	重要度(%)	満足度(%)
28年度(今回)	分野② 安心して暮らせる支え合いのまちづくり	70.4	11.0
26年度(前回)	基本目標2 地域づくり・子育て・福祉	58.7	8.8
	基本目標5 安全・快適・行政	58.2	8.0

## ○分野③ 自然と人が共生するまちづくり

### 全体的な傾向

【交通の利便性の向上が望まれる】

分野③は、他の分野と比較して項目間の差が小さく、重要度、満足度ともに相対的に高くなっています。

この分野において、満足度が平均値を下回る項目は「交通の利便性の向上」のみとなっていますが、同項目の重要度は相対的に高く、また、自由意見においても多くの声が寄せられていることから、さらなる交通の利便性向上が求められていることが伺えます。

一方で、「環境にやさしいまちづくり」や「自然環境の保全」などについても重要度が高いことから、引き続き、豊かな自然環境を本市の魅力として保てるよう、環境に配慮したまちづくりを進める必要があります。

### 前回調査との比較 (※)

【自然環境の保全に対する満足度が低下】

分野③と前回調査の基本目標 3 を比較すると、重要度が高まり、満足度は低下しています。満足度が低下した理由としては、前回調査で満足度が最も高かった「公園・緑地の整備」の設問と入れ替わる形で、満足度の低かった「交通の利便性の向上」の項目を分野③に含めたことに加え、「自然環境の保全」の項目が 10 ポイント以上減少したことも大きく影響しています。

調査年度	分野	重要度 (%)	満足度 (%)
28 年度 (今回)	分野③ 自然と人が共生するまちづくり	63.2	14.5
26 年度 (前回)	基本目標 3 環境・都市基盤	59.4	20.0

### ○分野④ 活力とにぎわいのあるまちづくり

#### 全体的な傾向

【雇用の確保と働きやすい環境づくりが重要】

分野④を他の分野と比較すると重要度、満足度ともに低くなる傾向にあります。重要度では、「雇用の確保と働きやすい環境づくり」の項目が高い一方で、他の項目は全て平均値を下回っています。これは安心・安全や教育等の分野に比べ、日常生活に直接結びつきにくい分野であることが影響していると思われます。また、満足度では、全ての項目が平均値を下回っており、引き続き産業分野全体のさらなる活性化に向けた取組が必要です。

### 前回調査との比較 (※)

【商業に関する満足度が上昇】

分野④を前回調査の基本目標 4 と比較すると、重要度は 10.7 ポイント、満足度は 2.3 ポイント増加しました。満足度の評価では、商業の分野が大きく増加しています。これは、平成 28 年 10 月にオープンした天沼地区の大型商業施設が影響していると考えられます。

なお、本調査の自由意見でも、この大型商業施設の開業を歓迎する声が多数ある一方で、駅周辺の商業の衰退を懸念する声も寄せられています。駅周辺の魅力をさらに高め、にぎわいを感じられる中心市街地のまちづくりが引き続き求められます。

調査年度	分野	重要度 (%)	満足度 (%)
28 年度 (今回)	分野④ 活力とにぎわいのあるまちづくり	55.0	5.7
26 年度 (前回)	基本目標 4 産業	44.3	3.4

※ 今回の市民意識調査では、「平塚市総合計画～ひらつか Next～」（計画期間：平成 28～35 年度）が新たにスタートしたことに伴い、設問を大きく変更していることから、前回調査との単純比較ができません。今回の調査結果を基準とし、今後の市民意識調査において推移・傾向を把握することで、現在の総合計画の達成状況を測定していく予定です。

